

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学

就業力育成 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成3D教育プロジェクト

## 大学で勉強した人は 30 歳代から伸びる

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー



### 略歴

84年名古屋大学大学院卒

京都大学博士（経済学）。

84～89年京都大学経済研究所  
助手、90～97年滋賀大学経済  
学部助教授・教授。97年～03年法政大学経営学部  
教授、04年～IM研究科教授。

e-mail:

[fhcdc@hosei.ac.jp](mailto:fhcdc@hosei.ac.jp)

研究室は新一口坂校舎4F

### 大学で勉強しなかった人材は伸びない

先日、大阪で行われたある会合で、大手化学メーカーの人事部長と話す機会がありました。本学の就業力育成支援事業についてお話したところ、全面的に賛同してくださいました。そして、次のような実態を語られました。

「若手の採用担当者に学生の選考を任せていると、的外れな人選をすることが時々あります。今年も、若手担当者がある大学の学生を選んできました。その学生は、アルバイトでタレントとして活動していたこともあって、人当たりがとても良く、コミュニケーション能力もありました。でも、大学で真剣に勉強することなく、いわゆる楽勝科目をとって卒業所要単位をそろえていました。

私は、その学生を最終面接に進ませませんでした。それは、大学時代に勉強していないと、30歳代半ば以降の伸びが止まることを経験値として持っていたからです。当社で活躍している人材は、大学時代にしっかり学問してきた人たちです。大学での勉強は、働くようになって必要とされる能力の育成に大いに役立っていると思います。」

我が意を得たりという気持ちでお話を伺いましたが、ふと「大学時代にしっかり勉強したかどうかで30歳代半ば以降の伸びに差が出るのはどうしてだろうか」という疑問を抱きました。大阪から東京に帰る新幹線の中で考え続け、東京に戻ってから折に触れて思い出して考えていました。その結果、次のように説明できるのではないかと思うようになりました。

### 根を張り、幹を太くしないと大きな枝を張ることはできない

木は、地中に深く根を張って自らを支え、幹を太くして伸びていきます。根と幹がしっかりしていれば、広く大きく枝を張ることができ、太陽の光をたくさん集めることができます。根と幹がしっかりできていない状態で枝を張っていくと、ちょっとした風で倒れてしまいます。

これを人に当てはめると、根と幹に当たるのが論理的思考能力や議論する力、価値観の異なる人とでも協力していける柔軟性といった基礎的能力であり、枝に当たるのが業務知識やさまざまなノウハウです。大学時代にしっかり勉強すると、根と幹の基礎ができます。根と幹は働き始めてからも強化していくことができますが、基礎ができているか否かで成長度合いが変わります。30歳代になって、責任ある仕事や難しい業務を担当するようになると、多くの知識・ノウハウを蓄えていく、すなわち枝を広く張っていく必要があります。そのとき、根と幹の堅牢さが問われます。

前述の人事部長の経験値は、大学教育の持つ役割と見事に結びついていると言えます。学生たちは、業務知識・ノウハウといった枝の部分に目を奪われがちで、大きく立派な枝は根と幹がしっかりしているからこそ張れるという点を忘れてしまいます。根と幹の基礎をつくるのが大学教育であることを学生に繰り返し語り、学生たちを叱咤激励することの重要性を再認識した経験でした。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。  
70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11  
年帝京大学と法政大学職員。  
11年~法政大学教員

## インターンシップって、誰のもの？

特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)

企業の採用活動開始時期変更の影響か今年はインターンシップ事前研修出前講座のご要望が多い。そこでこの問い掛けをしてみるのだが、正解は“学生自身”だ。昨今の若者流儀で、教えてもらえるという期待でインターンシップに参加する学生を多く見かける。ここがインターンシップを受入れ・行う側の立場を理解させる機会だ。実施側にとってインターンシップとは決して喜んで受入れているものではない。

表面的には社会貢献目的と体裁を整えるが現場の本音は逆でお荷物なのが実態だ。(インターンシップを実質採用活動としている企業は別として)従い、インターンシップに向かう学生には具体的な目的を持ち、どういう課題を意識して自らどう取組むかが問われる。まさにインターンシップとは学生のもの、この自覚を胸に取組んで欲しい。

## 就活の不安を教材にする

特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)

倫理憲章の変更で、今年から経団連加盟企業の採用活動解禁が4年の8月からとなりました。巷では「誰も得をしない」と批判する声もありますが、これは学生の学習・生活環境を取り戻そうというもので、就職産業という「損得」という資本主義の悪影響から学生を守ろうというもので、「損得」という視点そのものが間違っています。

学生や企業が困惑しているという指摘は間違っていないが、これは時期が遅いとか早いとかの問題ではなく、昨年とは大きく変わるので「前年度の経験が殆ど役に立たない」ということが理由です。なので、来年になればこれらの不安は殆ど解消されるでしょう。

しかし、それでも学生が不安だということで、2~3年生の対象の授業のゲストに企業人事採用担当者を招いて「学生が提案する採用活動」という提言をさせ、コメント戴きました。結果、学生は自分たちの不安が如何に根拠(知識)不足であるかを学び、不安(要求)を提案に変えるスキルを学びました。就活というネタも教材として料理できるのです。



略歴:日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

## インターンシップという物真似から大学生が得るもの

小金井事務部学務課長 細田 泰博 (ほそだ やすひろ)

インドの昔話。ある若者が親孝行で王様に褒美をもらう。隣のならず者が「俺も褒美を」と老母に「王様の行列見物に行きたいかい。じゃあ俺が背負ってやろう」老母「わたしは足は丈夫なのに」「それじゃ歩けなくしてやるぜ」ゴキッ。行列見物に居た、老母を背負ったならず者を見て王様が「あの者に褒美を」「なりませぬ。あれは親孝行のふりをしているだけです」「いいのだ。ふりでもあの者は今、孝行しているではないか」それを聞かされたならず者は、初めて自分のしていることに気付いた。老母になんという仕打ちをしたことか、王様の慈悲がいかに大きいのか、周りが自分をどう見ているのか。

何の話？と思ったでしょうが、インターンシップが大学生に与えるものとは「自分が何をしているかを知る」ということではないでしょうか。若者は「自分が意識していないものは存在しないと同じと思っている」という話を聞きました。自分の気持ちを尺度に生きている者は、自分を取り巻く世界が見えていません。社会がそういった者で埋まってしまったら…。仕事とは常に人との関わりを意識すること、それを若者に直に見せることが、企業の社会貢献につながる。面倒なインターンシップ受入れを、そんなふうと考えてはもらえないでしょうか。



法政大学社会学部社会学科卒  
学務部教育支援課、学部事務課を経て  
小金井事務部学務課長  
本学応援団総監督

### ◆ 夏休みインターンシップ

・文部科学省産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の取組み「志事(しごと)発見インターンシップツアー」が8月中旬より実施されます。企業の経営者や働く人たちがどんな「志」を持って日々働いているのかをテーマ別にそれぞれ3企業で体験します。  
・前回大好評でした、法政大学×フジテレビ「メディアリテラシー実習講座」をチーム編成や日程などを見直し、再び実施します。「法政大学生の今と未来」をテーマに学生自らが企画から撮影・編集、スタジオ収録までを行います。

◆ 編集後記：夏です。夏と言えば海だー！旅だー！が定番の大学生の夏休み、それも3年生ともなれば一番自由に過ごせる時期です。ところが今年はやっと様子が違うようです。3年生は今、インターンシップに追われています。学生の間では「インターンシップに行かないと就職できない」という噂がまことしやかに流れ、危機感をもって過ごしている学生も少なくありません。インターンシップに参加したら、それだけ身につくものもあると思いますが、それは海外旅行やボランティア活動よりも得るものが大きいのでしょうか？何か学生の可能性を狭めているような気がする今日この頃です。《事務局:平山》

法政大学 就業力育成 3D 教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>